

作業活動を訓練プログラム、外出の機会へ

横浜市泉区

ツクイ横浜中田

管理者 多田 英二

1. はじめに

近年、デイサービスは多様化し、各施設の質の向上・特色が必要となっている。ツクイ横浜中田は2014年の開所以来、「手工芸・趣味活動」をテーマとしている。開所より2年経過し、作業療法士をチームに迎え、その専門性を生かし、作品創作を通じた機能訓練をプログラムに取り入れている。作業の持つ特性と、お客様の意欲を引き出す取り組み、そして外部機関を交えた作業活動・発表の場の提供への取り組みをご紹介します。

2. 事例や取り組みの紹介

<2014年-2016年の取り組み>

ツクイ横浜中田は、2014年4月の開所より、【Audience/work of art】「お客様/芸術作品」にこだわり、参加型イベントを毎月10回程度提供している。身近な道具であるクレヨンを木版に固定し、ドライヤーで溶かす「メルトアート」や、「木版」「釘」「刺繍糸」で作られるウォールアートの「ストリングアート」を中心に実施し、ご本人だけでなくご家族やお孫さん方にも楽しんでもらえる作品を展開した。イベントの作業中は、次は何をやるのだろう、どんなものが出来上がるのだろう、などの想像を膨らませ、完成した作品を見ると自分が担当した部分を得意気に話される機会が多くなった。

<2016年-現在>

2016年6月より作業療法士が入職。ツクイ横浜中田での手作業/巧緻動作訓練の導入を強化した。その中で特に力をいれているのが「きりえ」である。きりえは、白黒に染め分けた下絵を紙に固定し、不要な部分を切り抜いて絵を作り上げていく絵画である。要支援2-要介護2のお客様10名を対象に、訓練プログラムを実施。訓練の主眼としては、手指の巧緻動作訓練・座位姿勢の保持、注意の持続・分配・保持訓練、日常生活リズムの構築、他者との交流の機会など多岐にわたる。作業は曜日・集団を固定し1度に4-5名で実施。作業時間は1時間-1時間30分とし、作業の途中でブレイクタイムを設定し、お茶やコーヒーの提供をおこなう。完成した作品はデイサービス内に展示し発表の機会としていた。

昨年より新たな試みとし、日本きりえ協会との連携を図り、「第40回日本きりえ美術展」への出品と、ツクイ横浜中田単独で、泉区民ギャラリー「テアトルフォンテ」での作品展を行った。日本きりえ美術展は、毎年11月に東京都美術館で開催されている作品展であり、約3か月の期間をかけ創作した作品7点を出品した。その作品を鑑賞するため、約20名のお客様と一緒に日帰りバスツアーを企画し、外出プログラムをおこなった。自身で創作した作品や同じデイサービスに通う仲間の作品の展示を熱心に見入るその光景は、私たちスタッフにも刺激となった。このツアーに参加することで久しぶりの外出や外食の機会となり、多くの場面や人びとから笑顔がみられた。テアトルフォンテでの作品展に関しては、お客様だけでなく、ご家族や友人にもご来場いただき、ツクイ横浜中田の取り組みを地域に発信する良い機会となった。

3. 考察

デイサービスでの活動や機能訓練での作品を外部機関やギャラリーに展示することにより、ご家族などとの外出の機会となる方々が増えた。また、定期的な作品展の開催をおこなうことで、身体機能に対する訓練への意欲も向上したり、バスツアー時の長時間の移動が可能なように、以前より日々の外出の機会が増えたりしたお客様もいる。日々の生活の動作や行動にもお客様ごとの「意味」が新たに加わり、行動にも「変化」をもたらすことができると感じている。その他の活動として、「ハーバリウム」の活動も導入しており、植物を切る、染色する、乾燥させる、瓶に詰める工程などさまざまな道具・材料を必要とする作業をおこなっている。「きりえ」「ハーバリウム」の作業活動に限らず、認知機能面の低下がみられるお客様でも、各工程を区切ったり、動作ごとに説明を加えたりすることで複雑な課題でも遂行可能な場合がある。ツクイ横浜中田での今後の取り組み・課題としては、この活動を一過性の事柄にすることなく、継続して提供していくこと、そのお客様の認知機能面・身体機能面に応じた、道具や環境を設定し、多くのお客様に活動を提供していくことである。そのうえで必要不可欠となるのは、スタッフに作業活動の必要性、作業の「意味」を理解してもらったうえで協力体制を整えていくことが必須となる。

4. おわりに

ツクイ横浜中田では、今後もお客様の要望を取り入れ、様々な趣味活動・作業活動を訓練プログラムとして取り入れ、認知機能面や身体機能面へのアプローチができることを強みにしていきたい。そのうえで、お客様の「やってみよう」という気持ちを大切に、さまざまな作業に取り組み、「できた」という達成感と「笑顔」を大切に今後の関わりも増やしていければと思う。



〈第40回日本きりえ美術展出品作品〉



〈ハーバリウム作品〉